科目ナンバリング	U-LAS06 20033 SJ43						
授業科目名 <英訳>	社会・経済システム原論基礎ゼミナール Introductory Seminar on Socio-Economic Theory			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　柴山　桂太		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	法・政治・経済(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・後期	曜時限	水5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

現代日本が直面する諸問題について、受講者各自の問題意識に基づいて報告・討議を行う。昭和から平成、令和にかけての政治・経済・社会の歩みについて簡単な概説を行った後、関連したテーマを受講者各自が設定し、毎回の授業で報告してもらうことになる。ただ現実を批判的に眺めて終わるのではなく、さまざまな思考実験を通じて、新たな社会構想へと繋がる議論をしていきたい。

[到達目標]

時事問題への関心と理解を深めること、およびそれらの問題に関する基礎知識を身につけることが目標となる。

[授業計画と内容]

毎年、参加者の関心に応じて内容はさまざまに変わるが、例年、次のようなテーマが扱われている。

東京一極集中と地方創生／理想的な選挙制度とは？／領土紛争の歴史
孤立する若者たち／エネルギー・食料自給率の引き上げ
日本企業はなぜ力を失ったのか／移民政策の是非／少子化対策
大学の存在意義／フェミニズムとその反動／新自由主義の功罪

現実の表面をただなぞるのではなく、われわれが「現実」と思っているものを違った仕方で見ることで、議論はより活発なものになる。積極的な参加を期待したい。

講義はゼミ形式で行われる。数回の授業（２～３回）の後、受講者の関心を聞きつつ、報告の割り当てを決める。その後は、毎回の報告と、その内容についての受講者全員での討議を行う。

全体の講義スケジュールについては初回講義時に説明する。

授業回数はフィードバックを含め全15回とする。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告（３０）、平常点（２０）、およびレポート（５０）による評価とする。平常点は講義への参加状況による。詳細は初回講義で解説する。

社会・経済システム原論基礎ゼミナール(2)へ続く↓↓↓

社会・経済システム原論基礎ゼミナール(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

インターネット上の情報のみに頼るのではなく、図書館の本・資料を効果的に利用してもらいたい。
詳細は講義時に説明する。

[その他（オフィスアワー等）]

報告内容についての相談は講義後に適宜、行う。

[主要授業科目（学部・学科名）]